

高等学校格差と高等教育進学機会 — 教育機会と生徒文化を中心に —

福岡教育大学 秦 政春

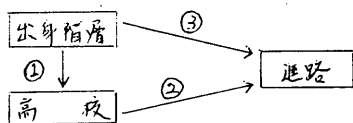
1. はじめに

高校進学率はすでに90%を超え、高校教育の大衆化はもはや言うまでもない。しかし、これと教育機会の側面から考えると、そこに様々な問題と内包している。一つは、進学機会に関する低階層の量的開放性の問題である。そして、いま一つは、これら低階層の進学機会が仮に拡大されたとしても、いかなるタイプ、あるいはいかなるランクの高校が拡大したのかという問題、及びそこに存在する生徒文化の側面である。

そこで、本報告では、教育機会の問題と高等学校格差、及び生徒文化の側面から考えるところにしたい。

2. 分析枠組と仮説

従来、教育機会研究の枠組は、出身階層→進路という形で、比較的高校のタイプ、ランクを考慮しないケースが多かった。しかし、高校教育の大衆化はすでに高校間に格差を形成し、この存在はもはや無視できないものである。



そこで、本研究では上図のような枠組を設定した。これは、高校への進学・不進学、及びいかなる高校へ進学するかは、その出身階層に規定される(①の矢印)、高校格差は言うまでもなく高等教育への進学・不進学を規定する(②)、と同時に出身階層は、高校格差をこえて高校卒業後の進路を規定する(③)、というものである。さらに、枠組の中に高校を設定することによって、各高校と支配している生徒文化を明らかにできる。つまり、高校格差が単に普・蔵格差、進学率格差に止まらず、意識の側面にも影響を及ぼしている事が予想されるからである。

3. 分析の結果

(i) 出身階層→高校

各ランクの高校に、各階層がどの位配分されているかを示した。

単位: %

出身階層	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻
出身階層	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻
普通科進学率80%以上	19.1	34.0	16.0	6.6	7.2	17.1	100.0(362)
60~80%	11.6	31.1	12.1	5.7	10.3	29.2	100.0(438)
60%未満	6.2	25.1	10.9	4.7	22.4	30.7	100.0(322)
農業科	3.1	21.3	5.2	4.5	39.0	26.9	100.0(290)
工業科	3.1	26.6	10.0	8.2	5.1	46.8	100.0(428)
商業科	2.9	24.2	14.1	4.8	17.4	36.7	100.0(610)

(ii) 高校→高等教育

各ランクの高校の中で、高等教育への進学率の階層配分比率を示した。(下段は、進路指数=進学率に占める階層配分率/在学率全体の階層配分率。これによって各高校ランクについて、高等教育進学率の各階層からの選別の度合いがわかる)

単位: %

出身階層	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻
出身階層	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻
普通科進学率80%以上	19.6	34.1	16.2	6.8	6.8	16.5	100.0(352)
60~80%	13.5	32.2	12.6	5.8	8.5	26.4	100.0(364)
60%未満	12.8	24.8	12.8	4.3	17.9	27.4	100.0(117)
農業科	4.0	26.0	10.0	6.0	40.0	14.0	100.0(55)
工業科	2.7	33.3	14.7	9.3	1.3	38.7	100.0(75)
商業科	4.3	22.8	24.3	4.3	10.0	34.3	100.0(70)

(iii) 出身階層→高等教育

各ランクの高校に在籍する同一階層の出身者のうち、高等教育に進学する者の割合。例えば、商業科に在籍する「専攻職」出身の生徒のうち10.8%が高等教育に進学する。

単位: %

出身階層	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻
出身階層	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻	専攻
普通科進学率80%以上	10.0	99.6	98.3	100.0	92.3	99.5	100.0(362)
60~80%	26.1	89.6	86.8	84.6	68.9	95.0	100.0(438)
60%未満	25.0	25.8	42.9	33.3	29.2	22.3	100.0(322)
農業科	22.2	21.0	31.7	23.1	17.7	9.0	100.0(290)
工業科	14.3	21.9	25.6	20.0	4.5	14.5	100.0(428)
商業科	12.6	10.8	19.8	10.3	6.6	10.7	100.0(610)

NII-Electronic Library Service